

と活用のための活動計画策定委員会」を立ち上げました。目先の利益にとらわれず100年先を見据え日本だけでなく世界の宝となった富士山の自然・環境・景観・文化などの普遍的な価値を守り次世代にしっかりと継承することが、富士山の真の高付加価値化であり、富士山とともにこの地域に生きてきた私たちの責任だと考えています。

を受けました。

2023年8月11日の山梨日日新聞には、富士山の登山者250人に行ったアンケート結果として登山鉄道に賛成と答えた人の割合は41.6パーセントとありました。賛成の理由として挙げられているのは、交通量の減少による環境保全や利便性の向上につながるとのことですが、これらの問題を解決するにはこれまで述べてきた通り富士スバルラインの交通規制を行い電気バスのみを運行させることで莫大な資金を投入することなく十分に対応が可能であると考えています。

さらにアンケートでは登山鉄道の賛否に対するアンケートで分からないと答えた人は3分の1以上の34.8パーセントを占めているともあり、多くの人々が山梨県の富士山登山鉄道構想の詳細を理解していないのではないか?と考えています。まずはこの構想をしっかりと理解できる環境を山梨県には整えていただき、地元の関係者を交えていただいてから活発な議論をしていくべきだと考えています。

その上で地元の私たちの考え方を様々な機会を通じて市民の皆さまだけでなく全国の方々にもご理解いただけるよう周知していくことが地元の市長としての務めであると考えています。

また「日本の宝」から「世界の宝」となった富士山の美しさや素晴らしさを今後何世代にもわたって引き継いでいくことができるよう、富士山の環境保全や来訪者の安全対策の強化に取り組んでいくという点は地元富士吉田市も山梨県も共通の認識を持っていると考えています。

山梨県においては、「富士山登山鉄道構想」について改めて地元とともに協議していただきたいと考えています。



山梨県の富士山登山鉄道構想は県の積極的なPR戦略により様々なメディアで取り上げられています。しかし莫大な経費がかかることは説明せずにカッコ良く描かれたイメージ図や便利さのみ焦点を当てた偏った情報をそのまま受け入れて賛同してしまっている人が多いような印象

Protecting Mt. Fuji and handing down Mt. Fuji to the future

FUJIYOSHIDA FUTURE STORIES

1

富士山を守り引き継ぐための 富士吉田市の取り組み



市内にある構成資産は、富士吉田が江戸時代に大流行した富士山信仰の中心地だったこと、江戸の人たちは富士山と富士吉田にあこがれを抱き続けてきたことを物語っています。1964年に富士スバルラインが開通すると、富士山は信仰の対象から観光・レジャーの対象へと変化していき吉田口登山道と御師の町の勢いは衰え富士山は「商売の山」に様変わりしていきました。

1991年に山梨県が計画した五合目立体駐車場計画に対し、富士吉田文化振興協会理事長内藤成雄氏や動物写真家中川雄三氏など市民による団体などによる反対運動が行われ、計画が白紙撤回されるとそのグループは富士山を世界遺産にする活動を行い246万人の署名を集めました。

この動きは国を動かし1994年に衆参両議院

で「富士山の世界遺産リストの登録に関する請願」を採択。残念ながら世界自然遺産に登録することはできませんでしたが、市でもこの動きに呼応し富士山の環境保全活動に注力するとともに、文化庁「歴史の道百選」に選定されたふもとから五合目までの吉田口登山道で、「馬返し」・「一合目」の発掘調査と復元事業に着手し、破損していた鳥居や石碑、登山道を復元させ馬返しへの休憩所開設や登山道への仮設トイレ設置、歴史ガイドツアーなどの事業を実施しました。これらの事業は世界文化遺産に登録するために行われたものではありませんが、富士吉田市が富士山を守り引き継ぐ強い意志を持って先進的に行った結果が世界文化遺産登録への礎となっていることは言うまでもありません。



▲富士スバルライン(1970年代)



▼歴史ガイドツアー



▲馬返し(整備前)



▼馬返し(整備後)

2

富士山世界文化遺産登録に向けた 富士吉田市の取り組み



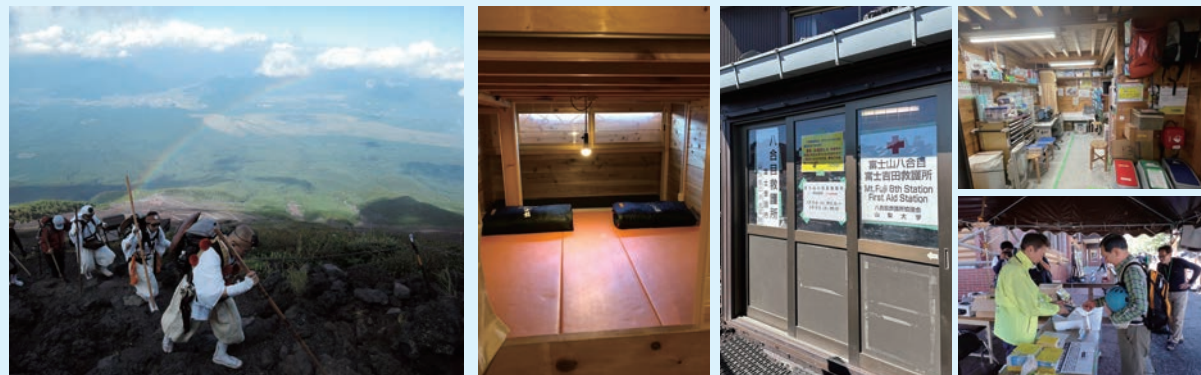
富士山を世界文化遺産にしようと様々な団体が動き始めたころ、富士吉田市も独自の動きをはじめています。構成資産となった御師旧外川家住宅は取り壊されようとしていましたが、所有者から譲り受け文化財として修復し博物館附属施設として一般公開しました。

また、夏山対策としては、富士山吉田口旅館組合と連携し①八合目に医師が駐在する救護所を設置、②すべての山小屋に環境配慮型トイレを導入、③山小屋の収容人員を減らしてゆとりあるスペースを確保するなど安心安全を確保し快適に登山を楽しめる環境づくりに取り組みました。そして

増え続けていた登山者を抑制するために弾丸登山の対策として旅行会社への注意喚起や安全登山のための啓発キャンペーンを実施しました。

さらに堀内市長は2008年に「富士山を守るために「入山料」を取ることを検討する必要がある」と提唱しました。当時は鼻で笑われた提案でしたが世論の後押しもあり2014年からは「富士山保全協力金」として山梨静岡両県で導入されています。

このように富士山のふもとのまちとして富士吉田市が目先の利益にとらわれることなく先見性を持って取り組んできたことが結果的に富士山を世界文化遺産に導いていきました。



3

もう一度学ぼう！ 富士吉田市と富士山世界文化遺産



1. 北口本宮富士浅間神社



世界文化遺産の構成資産の中でも「信仰の対象」として大きな役割を担っています。現在の社殿は1730年代に富士講の中で最も力を持っていた村上光清により建てられたものです。

3. 吉田胎内樹型

富士山噴火により出来た溶岩樹型が女性の胎内にたとえられ富士講信者たちの祈りの場となりました。1892年埼玉県志木市の富士講「丸藤講」の星野勘蔵が発見したもので4月29日の吉田胎内祭には今も星野の子孫や志木市の方々が参加しています。



2. 吉田口登山道

北口本宮富士浅間神社を起点にふもとから山頂を目指すことのできる唯一の登山道です。江戸時代に富士講を広めた食行身禄(じきぎょうみろく)が吉田口を登山本道と定めたため最も多くの登山者が利用しました。現在は、市によるトイレ設置などだけではなく馬返しまでの定期バス運行や馬返しの「大文司屋」茶屋の復活など、五合目までの登山が注目を集めています。

4. 御師住宅(旧外川家住宅・小佐野家住宅)

御師は富士講信者が登山をする際に宿や食事の提供をし、日常は富士山信仰の布教や祈祷を行っていました。金鳥居から「富士みち」沿いには、江戸から明治の最盛期には86軒、今でも10数軒の御師の家が残っており「信仰の対象」だった往時の面影を残す街並みが続いています。



4

富士山が世界文化遺産に登録された原点

世界文化遺産に登録されたことで富士山は日本だけではなく未来に受け継ぐべき世界の宝として認められました。富士吉田市は世界遺産登録10周年の節目に市中心部を南北につらぬき世界の宝となった富士山へと続く「富士みち」を中心に世界に誇ることでできるまちづくりに取り組んでいます。その一環として構成資産である北口本宮富士浅間神社から六合目までの吉田口登山道を登山者に快適に利用していただけるよう「富士山

吉田口登山道における保存と活用のための活動計画」の策定に着手し、環境省、山梨県、恩賜林組合などの協力をいただきながら、休憩所・案内看板・トイレなどの整備の実現を目指していきます。そしてこの吉田口登山道の復興は夏山シーズンに登山者が集中し「オーバーツーリズム」をもたらしている現況に対し多様性に富んだ四季折々の富士山の楽しみ方を提案し富士五湖エリアの高付加価値化に貢献していくものであると考えています。



2023年	2022年	2021年	2019年	2016年	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	2010年
ふじさんミュージアム内に「ふじさんVRシアター」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	富士五湖観光連盟堀内会長が山梨県が進めている富士山登山鉄道構想について「Sバスター」を1日3往復できる電気バスが実際に運行しておりLRTは環境保全や利便性コスト面で必ずしも優位ではない」と反対を表明	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表	山梨県が「富士山登山鉄道構想」を発表
「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン
「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン	「ふじさんミュージアムパーク」オープン

2009年	2008年	2007年	2006年	2005年	2004年	2003年	2001年	2000年	1998年	1997年	1994年	1992年	1991年
富士五湖観光連盟が富士山登山鉄道構想を発表	富士吉田市富士山世界遺産条例制定	「富士道あんぎゃ」が都留信用組合のサポートを受け「富士まで歩く講」として復活	堀内市長が「将来的には富士山の自然環境を保全する意味でも「入山料」を取ることも検討する必要がある」と提唱	富士山を世界遺産暫定リストに登録	吉田口登山道の山小屋すべてに環境配慮型トイレが整備される	収容を減らし快適で安心安全な環境を提供する山小屋改革スタート	山梨県が「富士山」を世界遺産暫定リストに登録	馬返し・合目周辺整備事業が完了し破損していた石造鳥居や石畳富士山信仰の石碑を復元	富士山に関する観光と環境施策を担当する「富士山課」開設	世界自然遺産候補地として国の検討会で17地域が浮上したが富士山は落選	御師旧外川家住宅の土地を購入し改修して08年から一般公開	御師旧外川家住宅の土地を購入し改修して08年から一般公開	政財界人で作る「NPO富士山を世界遺産にする国民会議」が発足し山梨県・静岡県も合同会議を立ち上げ世界文化遺産登録に向けた活動開始
富士五湖観光連盟が富士山登山鉄道構想を発表	富士吉田市富士山世界遺産条例制定	「富士道あんぎゃ」が都留信用組合のサポートを受け「富士まで歩く講」として復活	堀内市長が「将来的には富士山の自然環境を保全する意味でも「入山料」を取ることも検討する必要がある」と提唱	富士山を世界遺産暫定リストに登録	吉田口登山道の山小屋すべてに環境配慮型トイレが整備される	収容を減らし快適で安心安全な環境を提供する山小屋改革スタート	山梨県が「富士山」を世界遺産暫定リストに登録	馬返し・合目周辺整備事業が完了し破損していた石造鳥居や石畳富士山信仰の石碑を復元	富士山に関する観光と環境施策を担当する「富士山課」開設	世界自然遺産候補地として国の検討会で17地域が浮上したが富士山は落選	御師旧外川家住宅の土地を購入し改修して08年から一般公開	御師旧外川家住宅の土地を購入し改修して08年から一般公開	政財界人で作る「NPO富士山を世界遺産にする国民会議」が発足し山梨県・静岡県も合同会議を立ち上げ世界文化遺産登録に向けた活動開始

富士山世界文化遺産登録に向けた取り組み

広報 ふじよしだ

December 2023.12

発行：山梨県富士吉田市

富士吉田市下吉田6-1-1

TEL:0555-22-1111

FAX:0555-22-0703

2023年12月1日発行

